

評価対象年度	平成24年度	政策評価シート(震災復興用)	政策	6
--------	--------	----------------	----	---

「宮城県震災復興計画」における体系	政策名	6 安心して学べる教育環境の確保 【教育】	政策担当部局	総務部, 環境生活部, 保健福祉部, 農林水産部, 教育庁
			評価担当部局	教育庁

政策の状況

政策で取り組む内容

将来の宮城の発展に向け、家庭・地域・学校の協働のもと、学校で学ぶすべての子どもたちが、夢と志を持って、安心して学べる教育環境を確保するため、「安全・安心な学校教育の確保」、「家庭・地域の教育力の再構築」及び「生涯学習・文化・スポーツ活動の充実」を柱に取組を進める。
特に、学校施設等の早期復旧、被災児童生徒等の心のケア、就学支援に重点的に取り組む。また、今回の震災の経験を生かし、防災教育の充実に努めるとともに、生命の尊さや将来自らが社会で果たすべき役割を主体的に考えるよう促す「志教育」を推進する。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	平成24年度決算(見込)額(千円)	目標指標等の状況	実績値(指標測定年度)		達成度	施策評価
				実績値	達成度		
1	安全・安心な学校教育の確保	13,940,750	災害復旧工事が完了した県立学校数(校)[累計]	83校 (91.2%) (平成24年度)	A	概ね順調	
			スクールカウンセラーの配置率(市町村教育委員会・公立中学校・県立高等学校)(%)	100% (平成24年度)	A		
			防災に関する校内職員研修の実施率(%)	84.1% (平成24年度)	B		
2	家庭・地域の教育力の再構築	214,538	家庭教育に関する講座への参加延べ人数(人)[累計]	27,764人 (平成24年度)	A	やや遅れている	
			地域と連携して学校安全計画を策定した学校の割合(%)	33.4% (平成24年度)	C		
3	生涯学習・文化・スポーツ活動の充実	1,698,064	災害復旧工事が完了した県立社会教育施設・社会体育施設数(施設)[累計]	12施設 (80.0%) (平成24年度)	B	概ね順調	
			被災文化財(国・県指定)の修理・修復事業補助件数(件)[累計]	50件 (61.7%) (平成24年度)	A		

- 達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」
C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」
- 達成率(%) フロー型: 実績値 / 目標値
ストック型: (実績値 - 初期値) / (目標値 - 初期値)

政策評価（原案）	概ね順調
-----------------	------

評価の理由・各施策の成果の状況
<p>・政策6「安心して学べる教育環境の確保」に向けて、3つの施策に取り組んだ。</p> <p>・施策1については、被災した児童生徒等への心のケアや就学支援をはじめ、「志教育」を通じた復興を支える人材の育成、「みやぎ学校安全基本指針」の策定による防災教育に対する機運の醸成など、各事業において一定の成果が見られた。また、県立学校施設の復旧工事が全体の9割まで達したほか、防災に関する校内職員研修が8割の学校で実施されたなどから「概ね順調」と評価した。</p> <p>・施策2については、家庭教育に関する講座への積極的な参加が見られ、子育てをサポートする人材等の育成が図られたほか、学校・家庭・地域が連携する協働教育や、防災や交通安全などの学校安全に関する事業においても、それぞれ一定の成果が見られた。しかし、地域と連携した学校安全計画の策定の進捗が約3割と低調なことから、本施策の一層の推進が必要であり「やや遅れている」と評価した。</p> <p>・施策3については、県民への多様な学習機会の提供や震災を後世に伝える取組などをはじめ、総合型地域スポーツクラブへの支援、被災した博物館等における資料の修復等、それぞれの事業において一定の成果が見られた。また、被災した県立社会教育施設・社会体育施設の復旧工事が全体の8割まで達したほか、被災文化財の修理・修復が所期の目的を達したことなどから、「概ね順調」と評価した。</p> <p>・以上のことから、施策2を「やや遅れている」と評価したが、施策1、3は「概ね順調」と評価しており、政策全体としては「概ね順調」と評価する。</p>

政策を推進する上での課題と対応方針（原案）

課題	対応方針
<p>・施策1では、震災により被害を受けた県立高校の復旧・再建をはじめ、児童生徒の心のケア・就学支援の継続的な支援が必要である。また、震災の教訓を生かし、児童生徒の災害対応能力の向上を図るとともに、復興を支える人材を育成する必要がある。</p> <p>・施策2では、家庭教育に関する研修等により育成した子育てサポーター等について、その活用がうまく図られていない市町村があるほか、防災教育についても、地域によって学校と地域の連携が図れていないところがある。</p> <p>・施策3では、県民への生涯学習機会の提供と地域文化の振興を図るため、津波で被災した松島自然の家をはじめとした県立社会教育施設の早期の復旧・再建、被災文化財の修理・修復等の着実な実施が必要である。</p>	<p>・施策1については、震災による津波で甚大な被害を受けた3校（水産高校・農業高校・気仙沼向洋高校）の再建を、計画に沿って着実に実施していくとともに、長期的・継続的な心のケア・就学支援に努める。また、防災教育や志教育に関する取組を促進させ、宮城の復興を支える人材の育成を図っていく。</p> <p>・施策2については、家庭教育を一層推進するため、研修会等を通じて地域の人材と人材を必要とする市町村のマッチングを支援するとともに、学校と地域の連携体制による防災教育の推進を図るための会議を設置するなど、関係機関相互の連携強化を図る。</p> <p>・施策3については、松島自然の家の再建に向けた用地買収等、県立社会教育施設の復旧・再建を、国・市町村・関係者等との調整を図りながら計画的に実施していく。また、被災文化財の修理・修復には多額の費用が掛かるため、国に必要な財政支援を求めるとともに、所蔵する市町村や法人・個人等に対して適切な指導を行っていく。</p>